とかち新聞
主筆 松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎月5の日発行　1カ月300円　1カ年前納 3,000円

どうなる 一町の首長選

本年五月に迫つている本別町長選、陸別町長選はどうなるのかーひとりの町長がかわつてみたところで国の政策がかわらないかぎりは大きな変化も前進も期待はできない筈ですが、それでもそれぞれの町の最高権力者の座にだれがすわるのかは住民関心の的ですが、サテ三町の場合は―。

北海道足寄郡足寄町
53.1.17
足寄町議会
受付

足寄

現職の小林弘道氏は三選目ながら五十才の若さで、十勝町村会の副会長から全道市町村林野協議会の会長のポストにあります。

明年の四選どころか五選も六選も不可能ではないとみられています。

というのは、十勝の大方の町村では保守+革新の双方からも押される立場でなければ不利で、その点、小林氏の場合は、社会党一地区労の推薦をうけて革新首長会に所属するレッキとした革新町長ですが、小林氏の学友は町の中堅層で占められ、教員だつた高野の教え子もおり、本家は町内でもつとも有家数の多い拓殖寺であり、道東建設工業の社長から町長選に打つて出た関係から建設業界をあげての支援体制が敷かれるなど、保守・革新を問わずの集票能力を発揮したものでした。

四十二年の初陣は三十九才という全道一の若さで、相手は現職二選目の高橋安蔵氏で市街地一番の大地主で商店街の大半は高橋氏の借地人とあつて、いわば高橋家の城下町ゴも同然。

それに挑戦したお為?が勝利したのは、高橋氏の弘前の日本領土であり、北方領土返還要求の運動も結構ですが、いくら署名運動をしても外交交渉をしても、あの強大国がいつたん手に入れた領土は手放すわけがないし、まして軍事的にはアメリカの属国のような形の日本に対しては!。

◆…平和憲法に北海道で、近隣諸国とは仲よく、徹底的に中立の民主的な政府ができて、ハボマイ、シコタン二島の返還によつて日ソ平和条約を結び、真の友好関係をすすめるのでなければ領土の返還はあり得ません

◆…ハボマイ、シコタン、タナシリ、エトロフの北方四島は日本固有の領土であつて、これを返してくれるのでなければ日ソ平和条約は結べないとし、せめて四島に関しては継続協議の対象にでもしてほしいーと、このたび園田外務大臣が訪ソしてソ連首脳と交渉したものの、領土問題は解決ずみの一点張りで、園田外相ちの一行はスゴスゴと帰国。

◆…解決ずみとは、先年鳩山首相の一行がロソ国交回復のために訪ソしたさいに、ハボマイ、シコタンの二島返還によつて平和条約を結ぶことを約束したことを指すものです。

◆…その前にサンフランシスコ講和会議で時の吉田首相は千島列島を放棄しているのです。

◆…またその前にアメリカをふくめた戦勝国のあいだで千島列島はソ連に引き渡すことを決めたヤルタ協定があります。

◆…たしかに北方四島はいわゆる千島列島にふくまれない北海道に付属する固有の日本領土であり、北方領土返還要求の運動も結構ですが、いくら署名運動をしても外交交渉をしても、あの強大国がいつたん手に入れた領土は手放すわけがないし、まして軍事的にはアメリカの属国のような形の日本に対しては!。

◆…平和憲法に北海道で、近隣諸国とは仲よく、徹底的に中立の民主的な政府ができて、ハボマイ、シコタン二島の返還によつて日ソ平和条約を結び、真の友好関係をすすめるのでなければ領土の返還はあり得ません

ニュースを斬る

北方領土はダメ

首相は千島列島を放棄しているのです。

◆…またその前にアメリカをふくめた戦勝国のあいだで千島列島はソ連に引き渡すことを決めたヤルタ協定があります。

◆…たしかに北方四島は

有地が国道拡出によつて国に買収されたのに土地代金は町役場の金庫に入れて置いて、代替地と称して町有地を取得した公私混同ぶりが問題となつて、当時の町村道知事が道議会で追及行為だと糾弾したのにもかかわらず、町議会の多数派をバックにゴリ押ししてきたために、もつとも困つたのは開発建設部や支庁や土木現業所で、そこへ出入りする建設業者としても役所から『あんな町長では困る』とグチをこぼされるのではいきおい「高橋打倒」に向つて立ちあがらざるを得なかつたようです。

これらの諸問題を解決して、どうにか国や道の信頼をとり戻して、四十六年の二選は無競争、当選となりました。

もして五十年の三選目には当選は許されないとして教育長だつた岡崎氏が立起したものの、六千二百七十八票対二千三百三十九票の大差で小林氏が三選を果しました。

明年の四選には小林氏は年令的にも賛成論ゥで、春の町議会で全会一致で議決をみた明年から十カ年の足寄町総合計画基本構想の実現に責任もあり、これからひとふんばりとみられています。

しかし一部にはこれまでの小林町政にあき足りない勢力もあり、四選は阻止すべきだという動きもありますが、こんどの一年間によほどの失政でもないかぎりは、保守・革新の双方から支持されている小林体制を切り崩すことは難しいので

陸別

一回の村長選挙が一騎討ちだつたあとは、工藤勝吉氏の三期、千葉庫一氏の一期はともに連続無競争という斜風状態でした。

四十二年の町長改選にさいしては当然、千葉氏が二選に出馬するものとみられており、地区労も推薦体制にあつたものの、両者ともスツキリしないところへもつてきて、商工青年部が杉田林業社長の四十二才の若さで、商工青年部が杉田氏のかつぎ出しに動きはじめたので、千葉氏は『町長は四年の任期で仕事をやりとげるべきもので、おかげさまで私は公約を実行できたので、任務を果した四月いつぱいが任期なので、補助、記憶の獲得につとめたい』と語りこれまで町政にタッチもせず関心もない人と争うのは大人気ないとばかりに二選辞退を表明しました。

その間に木材業界の一部で当時の管財課長を選挙の動きもあり、本人も立起の意向でしたが、杉田後援会の体制が確立したので断念したので、杉田氏の初陣は無投票となりました。

議員の経験もなく、町や各種団体の役員でもなく、町内では目立たない存在の杉田氏だつただけに、おりからの過疎化進行の真つただなかに立たされて、ウルサ型もいる町議会から古参課長や議員組合までに小突きまわされる?ような格好の一期でしたが、持ち前の温厚と誠実さで難問題を切り抜けてきたし、特に役所、消防団に対しては実人町長らしさで信頼を得てきたことです。

五十年の二選は対抗馬はなく無競争当選で、明年の三選ももとも無競、政争を好まない町の伝統ゥからも五十才を過ぎる杉田町長の独走となりそうです。

本別

四十一年の町長選は多政争の町。

の面目をイカンなく発揮した形の所武合戦で、現職一騎の岡崎宏雄氏と副議長で商協組合長の水元東夫氏の一騎討ちでした。

この年の春の臨時町議会に「本別町商工会へ二百万円の貸付について」を提案したところ、反町長派の議員から異議が出て、議案は「本別町長岡崎宏雄への貸付」に変更させられたうえ反町長派から岡崎町長の公金流用事件として警察署や検察庁へはたらきかけがあつて岡崎氏が逮捕、拘置という最悪の日に、一方では本別劇場で水元後援会の設立総会がひらかれるという皮肉なスタートぶりでした。

そのうえ選挙戦の終盤にあたつては、地元新聞が岡崎氏の女性関係のスキャンダルを写真入りでバラまくというバクロ戦術もあつて水元氏の勝利とはなつたものの、その票差はホンのわずかで、両陣とも正々堂々としたフェアな選挙戦であればどうなつたかわからない一戦だつたといえましょう。(以下才二面へ)

一九七八年の新春

本別町

町長 水元李夫
助役 藤田高志
収入役 剣持好蔵
総務課長 数藤肇
税務課長 鈴木信治
産業課長 中川末五郎
福祉課長 大沼清
保健衛生課長 椿隆安夫
税務課長 新津茂樹
管財課長 川村優
水道課長 鎌田一平
教育所長 吉田光雄
老人ホーム所長 井出利明

足寄町

町長 小林弘道
助役 富田秋雄
収入役 鷲岡憲雄
総務課長 木村重雄
企画課長 山本豊吉
管財課長 山岡信一
民生課長 杉本太
産業課長 原守郎
税務課長 品川昭夫
経済課長 土田三郎
環境課長 飯田重男
水道課長 横山三郎
厚生支所長 星昭司
大規模草地育成牧場長 石井格

陸別町

町長 杉田稔
助役 徳光孝夫
収入役代理 檜森敬二郎
総務課長 荒木秀夫
企画課長 大橋雷雄
管財課長 五十嵐慶一
民生課長 宮川寛
農林課長 原田博智
施設課長 加藤康夫

本別町教育委員会

委員長 土蔵勇
同 委員 河合悦郎
同 石山美子
同 東条弥
教育長 水野平八郎
同次長 森昭吉

足寄町教育委員会

委員長 新津幸助
同代理 前谷信正
委員 新妻幸雄
同 新海文雄
教育長 谷忠光
同次長 別宮進
管理課長 土田浩
社会教育課兼オンネトー青年の家所長 江口建一郎
給食センター所長 野中竹男
高等家政学院長 谷口孝

陸別町教育委員会

委員長 平林英祐
委員 金沢エイ
同 西岡隆
同 竹岡史展
教育長 佐々木春志
同次長 江下広

本別町農業委員会

会長 牧田庄二
同代理 石上十一
事務局長 菊地正平

足寄町農業委員会

会長 西村啓一
同代理 尾西民男
事務局長 大塚昭二

陸別町農業委員会

会長 佐々木茂雄
同代理 飛騨武夫
事務局長 臨坂弘一

本別町監査委員

渡辺一郎
朝日明

足寄町監査委員

森西勝夫
香川博彦

陸別町監査委員

加藤三治
池尻英治

陸別町国保診療所

所長 伊藤正美
事務長 大八木信志

足寄町国民健康保険病院

院長
医長 加賀谷秀夫
事務長 野崎征郎
同次長 丸谷彰
婦長 野津伸司
高萩福子

本別町国民健康保険病院

院長(内科) 西根司
副院長(外科) 高橋壮之祐
産婦人科 野田勝美
内科医員 久田憲雄
事務長 佐藤新二
同次長 遠藤一雄

新柄婚礼衣裳

きものと帯は

久保呉服店

足寄町 丁五ー二ー四八